

なかつか 亮



「地域と学校の関係が薄れる (町会役員)」

このままでいいの? 学校選択制

「学校を選ぶ」制度の中、多くの「ひずみ」が。十分な検証、見直しが必要です

品川の教育改革が始まって10年目。改革の「ひずみ」が浮き彫りに。町会役員からは「学校選択制で地域と学校のつながりが薄れた」と声も多数あがっています。共産党は学校選択制や小中一貫校など、教育改革は教育の専門家や区民も参加した十分な検証を行い、見直すよう求めました。

全国初が踊る「改革」

青少年地区委員とし、子ども達を見守ってきた方は、品川の教育改革を振り返ります。

「品川区の教育改革がNHKで紹介され、全国初だと報道されると、それだけで品川は教育に熱心だと喜んでいたら、実際に始まってみれば、選択制も、小中一貫校も、これが子どものためだという実感がわかない。むしろ、選択制で学校と地域

の関係は弱くなった

し、小中一貫校はマソモス校で息苦しさすら感じる。当時は教育改革だから、きつ

と良いことだと期待してたが、振り返ると、ただ振り回されただけの改革。それが子どもに良かったのか、わからない。品川の教育改革は、見直しの時期に来ていると思う」と。



地域の絆、壊れた

特に異論が強いのは学校選択制です。元PTA会長は「学校を選べると始まった選択制が大

切なもの壊してしまった。それは地域と学校の絆だ。選べるのは便利だが、便利だからといって、この絆を壊してよいのだろうか。学校と地域の絆を再構築させる改革こそ必要」と話します。

裏へ



「地域のどこが壊れているのか」

文教委員会（6月23日）で学校選択制が議論になりました。私が「学校選択制で地域と学校の関係壊すとの声をたくさん聞く。見直しが必要だ」と発言。若月教育長は「地域が壊れるとは、いったい、どこが壊れているのか。事実からものを言っして下さい」と答弁しました。

地域が壊れているのか。一度しっかり勉強して教えて頂きたい」「先入観が強すぎる。学校選択制ぐらい保護者、親、子どもの声を聞く制度はない」と答弁しました。

さらに小中一貫担当課長は「品川区のアンケートでは学校選択制は高い支持。一方だけの意見だけを取り出し、全部だめだというような、ご批判はやめて頂き



たい」と答弁しました。私は学校選択制で、地域と学校の希薄化を認めない区教委は、実態から目を反らすもの。子どもや地域と真剣に向き合おうとしない教育改革の表れだと思えます。

学校選択制は見直しが必要です。

「教育委員会が決めたことをやらないで、自由にならなくていい。その結果……」

また若月教育長は「品川が今やっている教育改革は、本来は日本の教育界全体がやらなきゃいけないこと。今までの先生たちが、教育委員会が決めたものをやらないで、自由にならなくていい。その結果、

今はどうか。不登校、いじめはある、学力崩壊はある。モンスターペアレントは出てくる。そういう反省に立って、今、教育改革をやるうとしているのだ」と発言しました。

私は、先生が教育委員会の決定に従わず自由にやってきたから、学校に問題がおきるとの指摘は、おかしいと思います。

共産党は、品川の教育改革について、教育の専門家、教師、父母、PTA、地域住民の参加で検証を行い、学校区毎の公聴会の開催を提案しています。ご意見、ご要望お聞かせ下さい。なかつか亮

8月4日の朝日、毎日、読売、東京など一般紙に折り込み

日本共産党区議会報告8月号（タブロイド版2色刷）が8月4日（火）の朝日・毎日・読売・産経・東京の朝刊に折り込まれる予定です。是非、ご覧ください。

都営住宅募集のお知らせ

◆単身者向、ポイント方式等◆申し込み 8月3日（月）～12日（水）◆解説：ポイント方式とは抽選によらず、住宅困窮度の高い方から順に入居予定者として登録するもの。対象はひとり親世帯、高齢者世帯、心身障害者世帯、多子世帯、車いす使用者世帯、特に所得の低い世帯です。申し込み用紙は地域センターでも配布

◆不明な点は、お気軽にご相談下さい。